JR東労組 Yokohama

２０２２年10月30日
第55号

JR東労組横浜地本
発行人 助川 一 実
編 集 情 宣 担 当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

イーハトーブ

10 月 30 日号

１１月１日で「えん罪・ＪＲ浦和電車区事件」が発生してから２０年が経つ。突然自宅に警察が来て、覚えのないことで逮捕され、家族にも会えず３４４日間も拘留され連日倒れるまで取り調べが続けられたら、あなたは無罪を主張し続けられるだろうか？取り調べに対して「えん罪・ＪＲ浦和電車区事件」の美世志会７名は「子供が二十歳になるまで出られない」「平和運動は生意気」「組織を半分にする」など、脅しや容疑と関係のない取り調べで事件がでっち上げられていった。裁判では「会話」が証拠として提出されたが、内容が改ざんされていた。後に無罪となったが、２００９年の障害者郵便制度悪用事件でも、フロッピーディスクのデータが改ざんされた。そこには何としても事件に仕立て上げなければならない意思を感じる。

えん罪事件がなくならない要因として、ドラマにもなったが９９．９％という日本の刑事事件における起訴後の有罪率の高さがある。そのことに加え、マスコミが「容疑者」と報道してしまえば、あなたも「あの人が犯人か？」と思ってしまう構造的な欠陥があるのではないか。「疑わしきは罰せず」の「推定無罪」の原則も無力なものになっている。

２０１９年に施行された「刑事司法改革関連法」では、逮捕後の取り調べの可視化などを義務付けたが、重大事件と検察独自の捜査に限られ可視化は全体の３％に満たない。法律をつくっても、えん罪撲滅のために活かされているのか疑問に感じる。

でっち上げにより人生が狂わされる、えん罪を許してはならない。

「えん罪・ＪＲ浦和電車区事件」の弁護団長である故・後藤昌次郎先生は「国家にしか出来ない犯罪は戦争とえん罪」と語った。であるならば、私たちが権力に対してチェック機能を果たしていくと同時に、真実を見る目を養っていかなければならない。今の社会をつくり出しているのも私たち一人ひとりだからだ。私たちが無関心を装えばえん罪を無くすことはできない。

私たち一人ひとりが関心を持ち、いつ自分に降りかかってもおかしくないえん罪事件をつくられない社会をめざしていこう。（Ｋ・Ｓ）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。